



日本仮想化技術株式会社

QNAP

Active Directory

参加手順書

2014年12月作成

目次

本書の概要	3
QNAP を参加させるネットワーク環境	3
Active Directory への参加手順	6
共有フォルダアクセス許可追加	14
ファイル共有設定確認	21

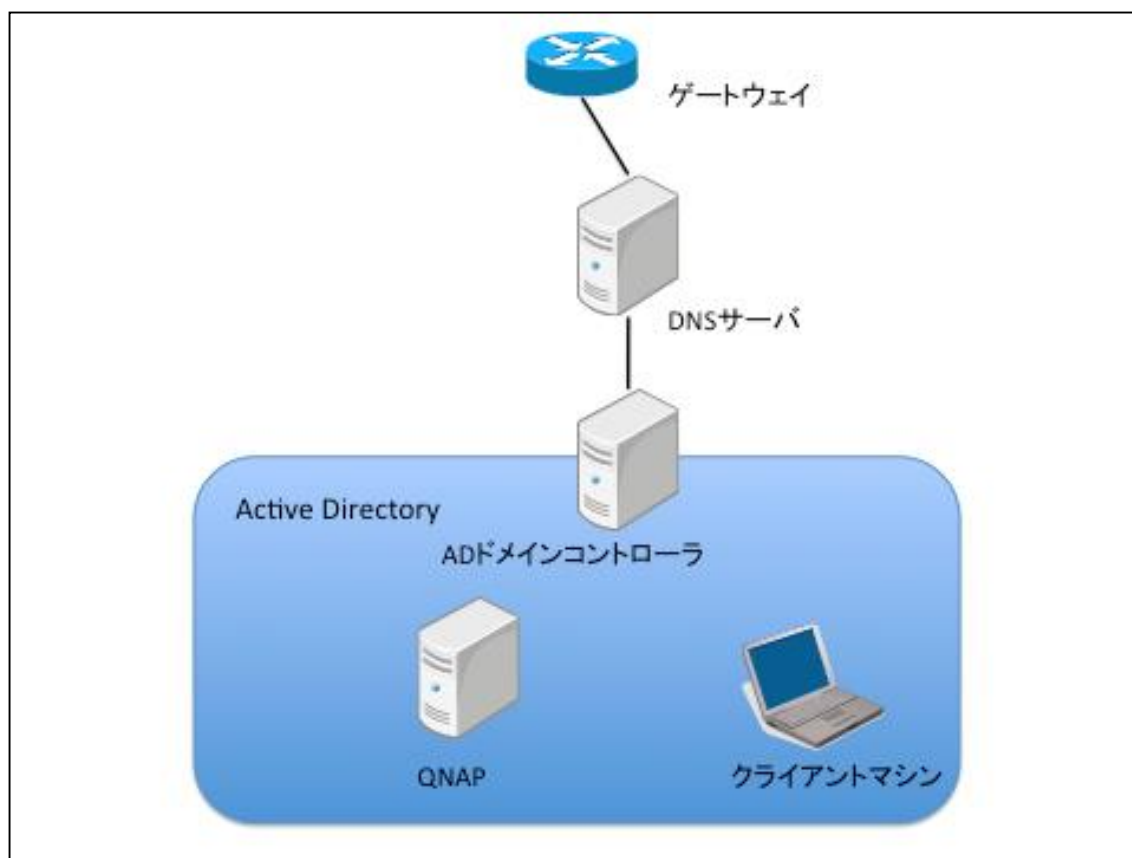
本書の概要

本書は、QNAP の WebUI を使用して、QNAP を既存の Active Directory (以下 AD) へ参加させ、QNAP の共有フォルダへ既存の AD ユーザの追加を行います。QNAP を AD へ参加させ、AD ユーザの追加を行い、既存の AD 環境で使用していたファイルを QNAP に移動することにより、ドメインコントローラの更新等を行ってもユーザ権限の変更を実施することなく、継続的に使用する事が可能となります。

QNAP を参加させるネットワーク環境

QNAP を参加させるネットワーク環境ですが、次頁となります。

環境構成図



- ドメイン名 : ad.qnap.local
- ネットワーク : 192. 168. 10. xx / 255.255.255.0
- ゲートウェイ : 192. 168. 10. 1
- ADドメインコントローラ : 192. 168. 10. 10 (サーバ名 : domcon)
- QNAP : 192. 168. 10. 20
- クライアントマシン : 192. 168. 10. 100

Active Directory には、以下のユーザが作成されているものとします。

- ADuser
- ADuser1
- ADuser2
- ADuser3

本書では、クライアントマシンより WebUI を使用して QNAP にアクセスして作業を行うことを前提としております。QNAP のネットワーク設定・WebUI の接続方法は、他 QNAP のマニュアルを参照してください。

Active Directory への参加手順

QNAPをActive Directoryへ参加させるにはクライアントマシンからのWebUIアクセスにより、下記の手順で参加させます。

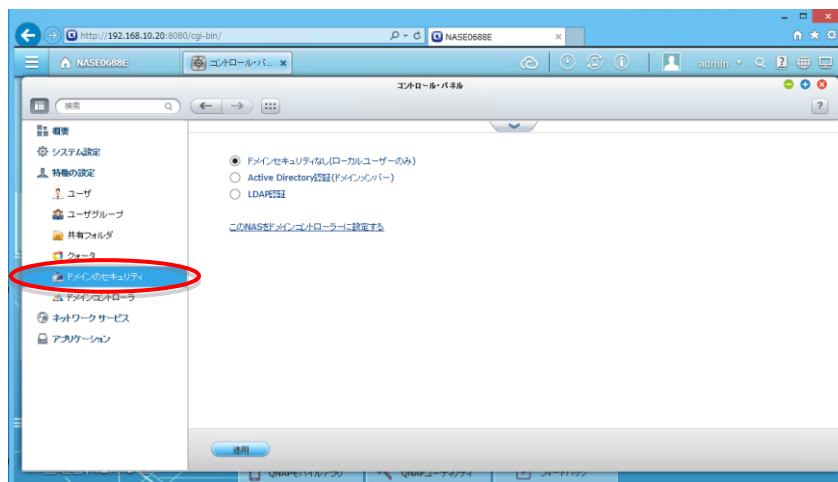
1. WebUI にログインします。



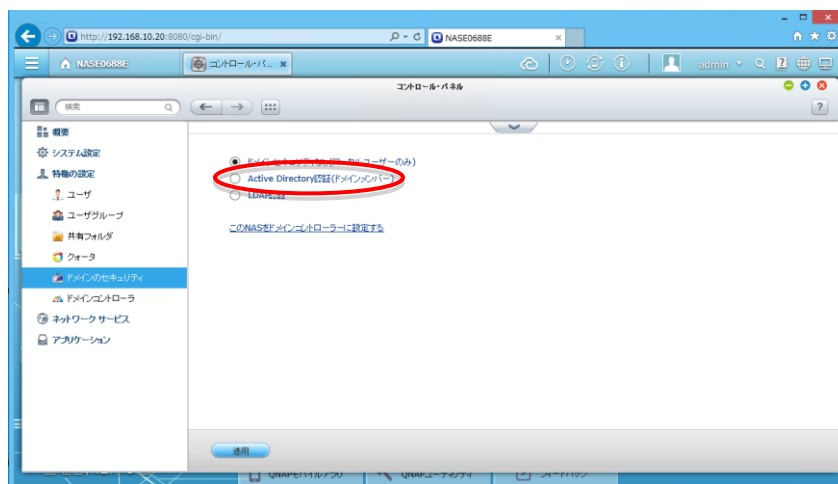
2. ログイン後、アイコンの[ドメインのセキュリティ]をクリックします。



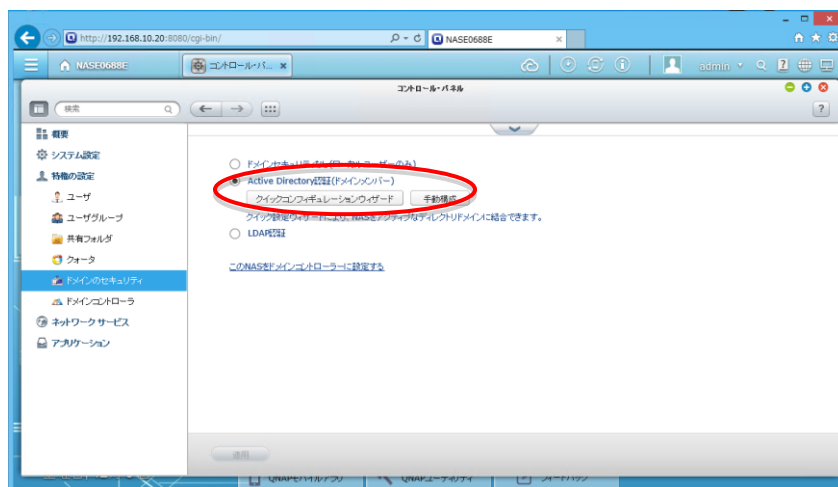
3. コントロールパネルが起動し、ドメインセキュリティ設定が表示されます。



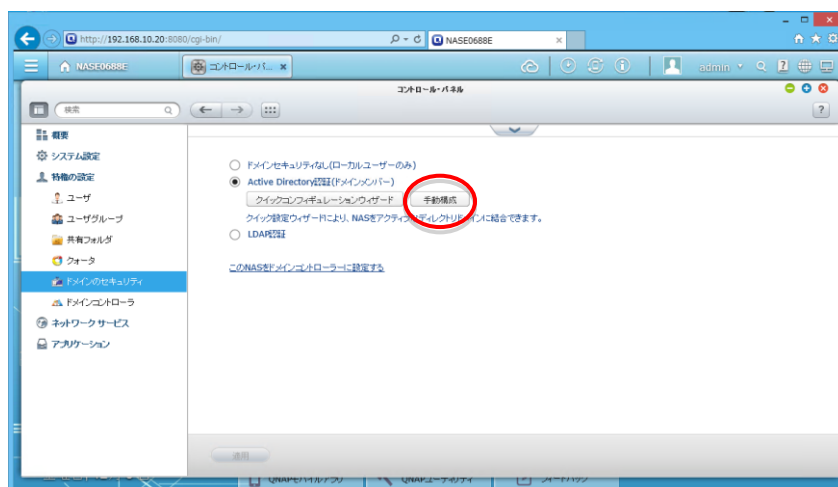
4. [Active Directory 認証]のチェックボックスをクリックします。



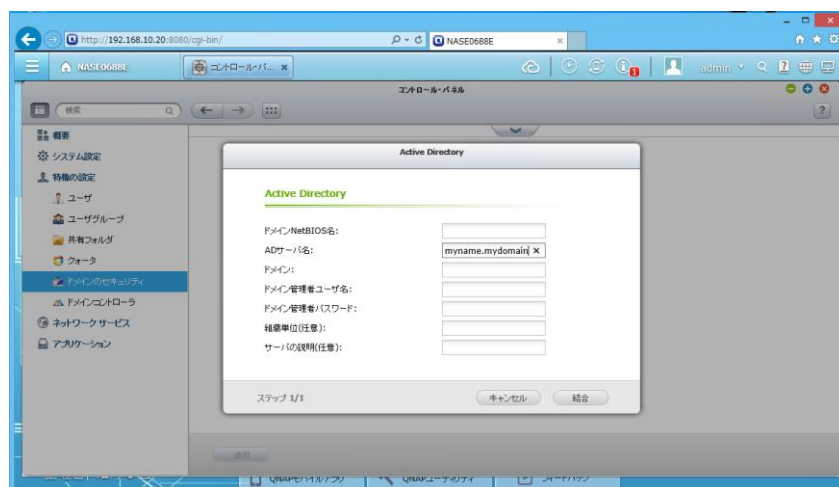
5. Active Directory 設定の項目が表示されます。



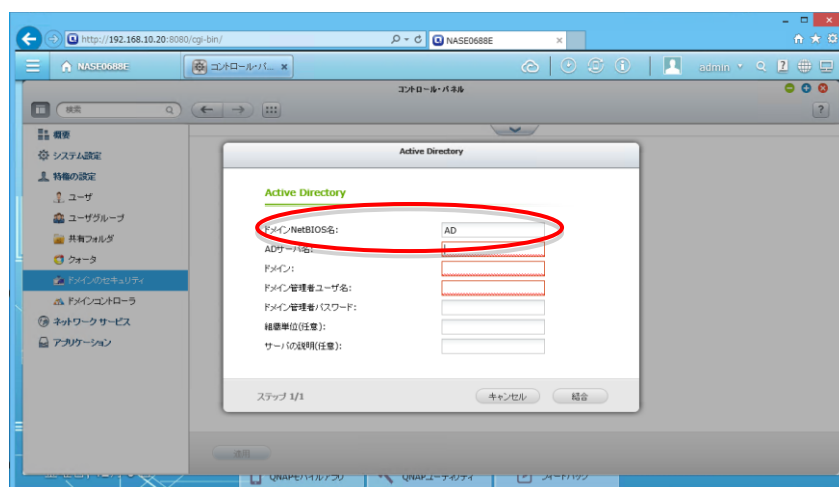
6. Active Directory 設定の[手動構成]をクリックします。



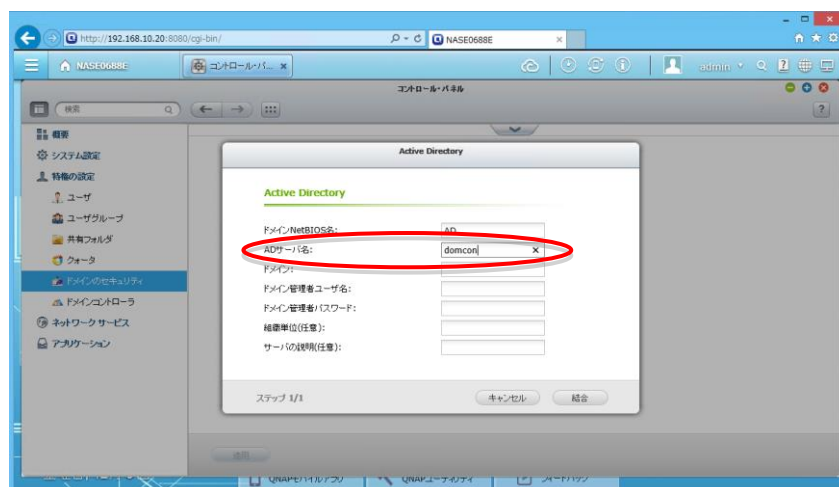
7. Active Directory 設定ウィンドウが開きます。



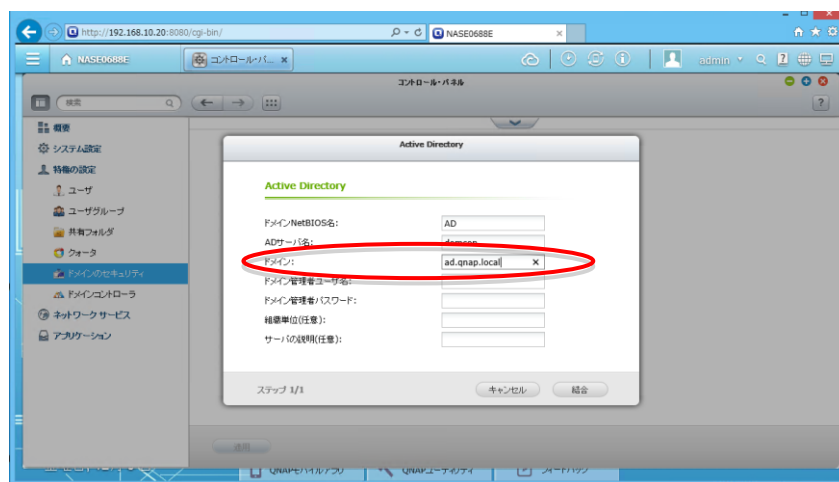
8. [ドメイン NetBIOS 名]に AD の NetBIOS 名を入力します。



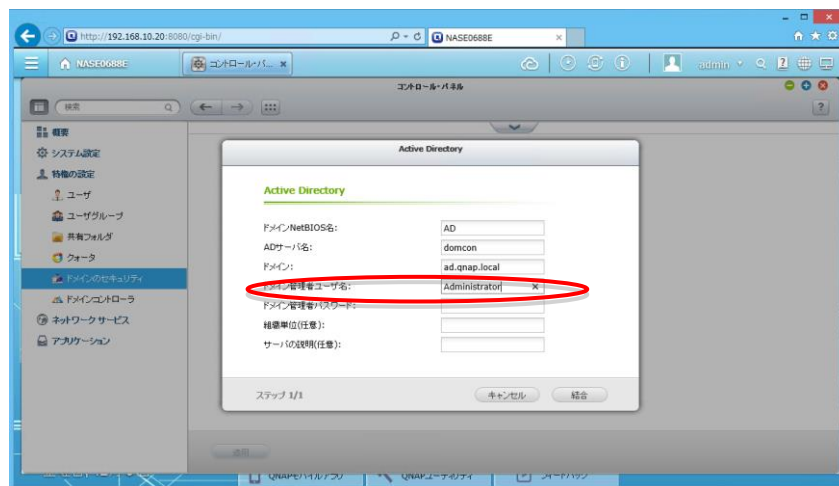
9. [AD サーバ名]にドメインコントローラ名を入力します。



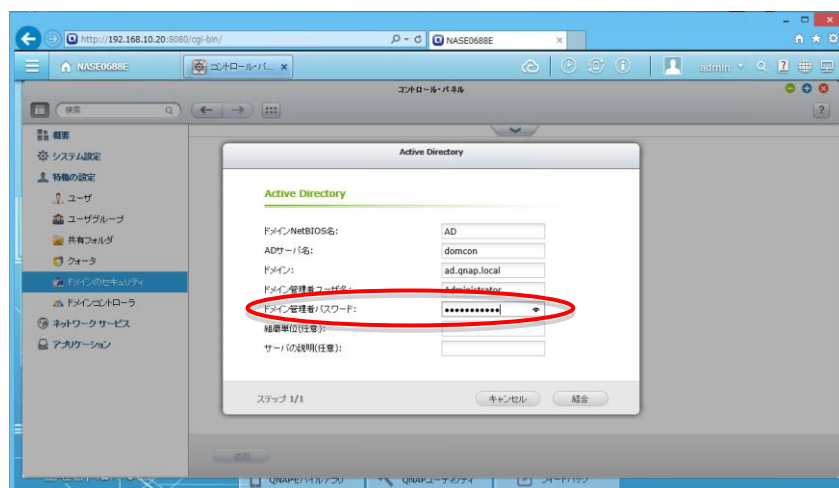
10. [ドメイン]にドメイン名を入力します。



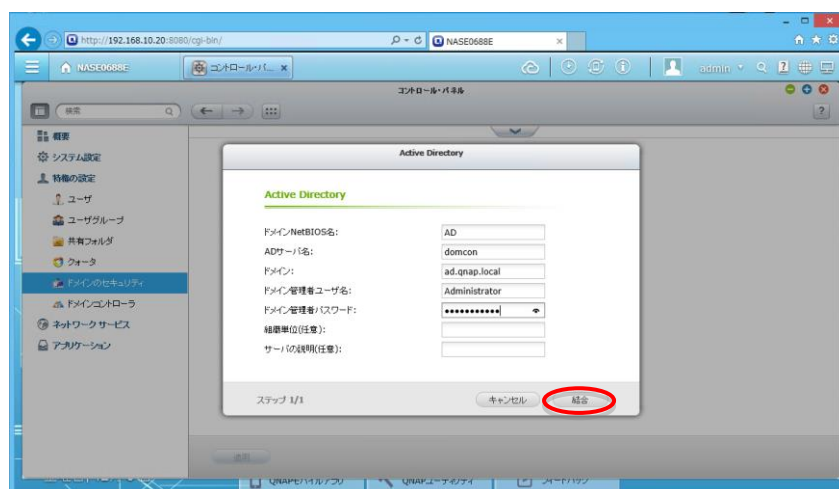
11. [ドメイン管理者ユーザ名]にドメイン管理ユーザアカウント名を入力します。



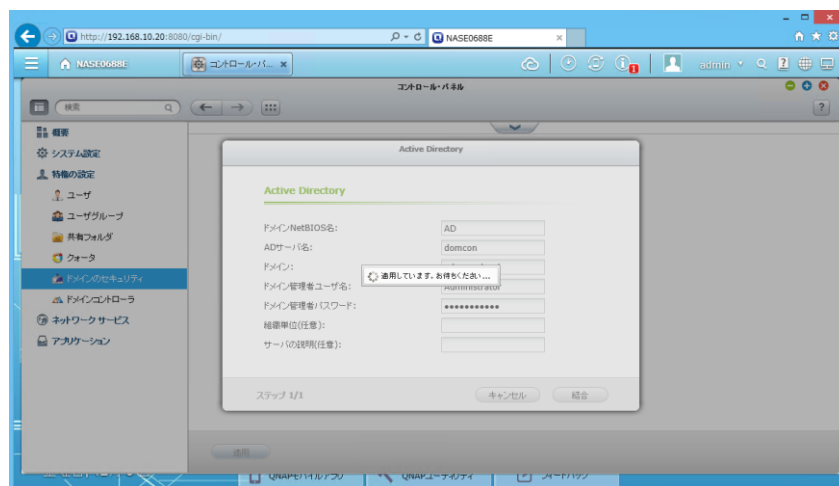
12. [ドメイン管理者パスワード]にドメイン管理ユーザのパスワードを入力します。

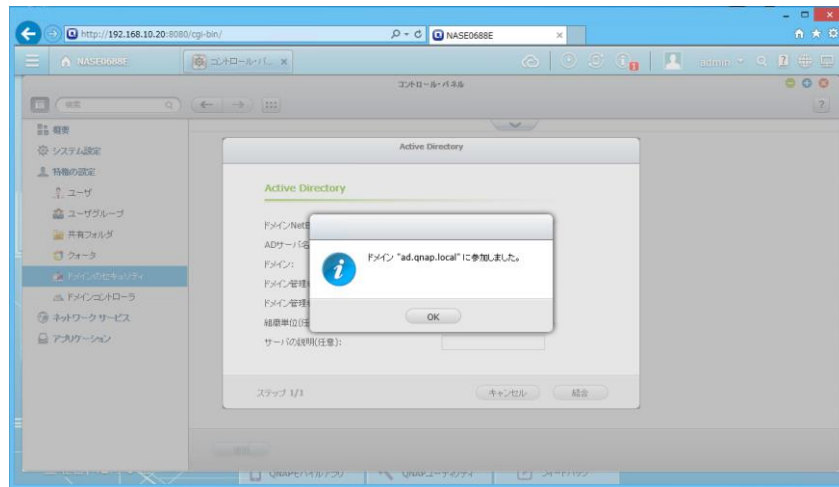


13. [結合]ボタンをクリックします。

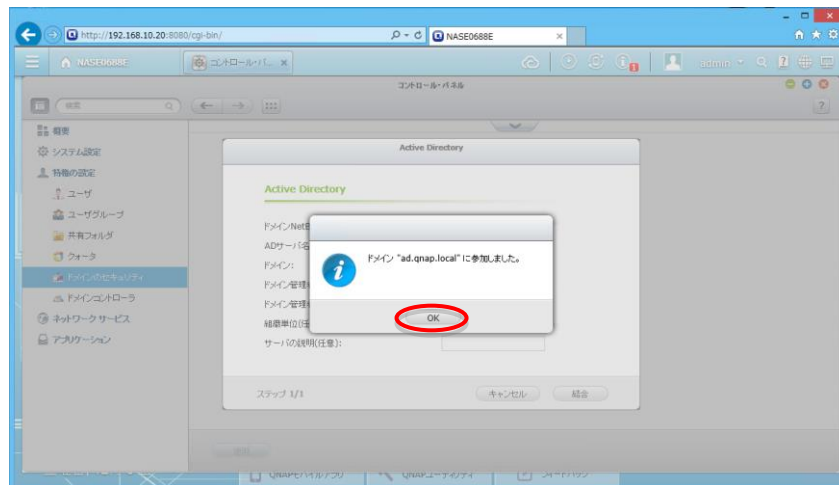


14. 既存 AD への参加処理が行われ、正常に終了すると成功した旨のポップアップが開きます。





15. [OK]をクリックすれば、Active Directory への参加が完了します。



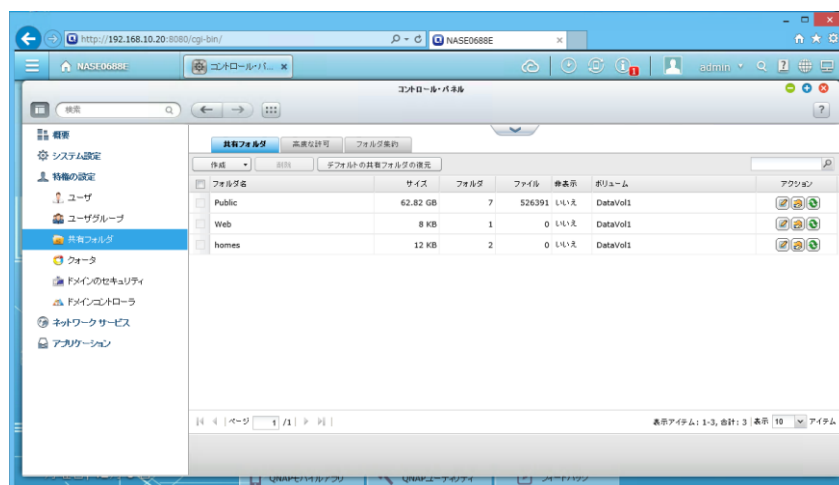
共有フォルダアクセス許可追加

前手順で Active Directory への参加は完了しましたが、このままでは AD ユーザーが QNAP のフォルダにアクセスできないため、共有フォルダへのアクセスユーザーに AD ユーザーを追加します。

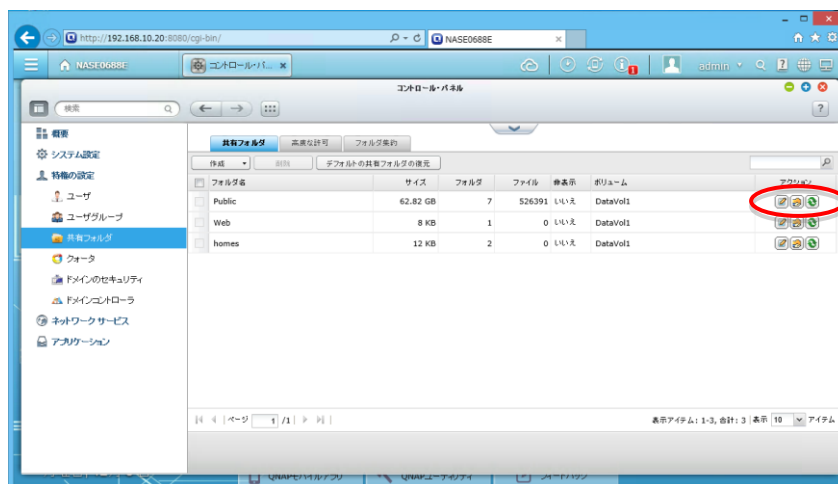
1. Web マネージャーの[共有フォルダ]アイコンをクリックします。



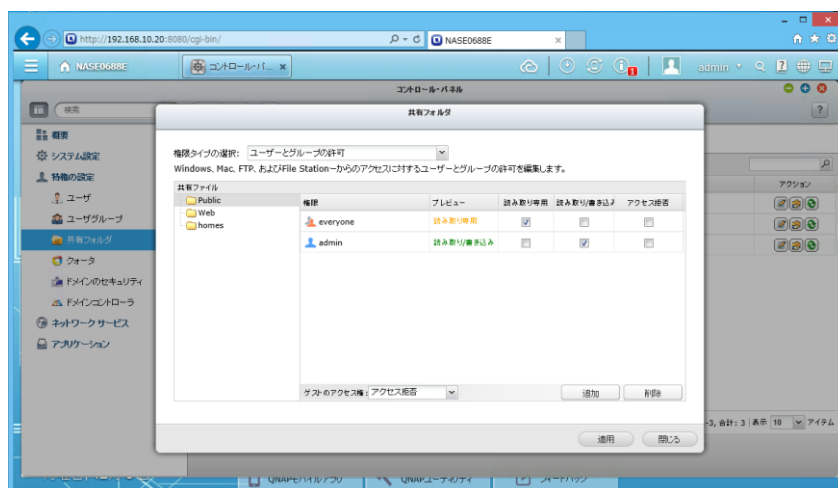
2. コントロールパネルが起動します、起動すると共有フォルダ一覧が表示されます。



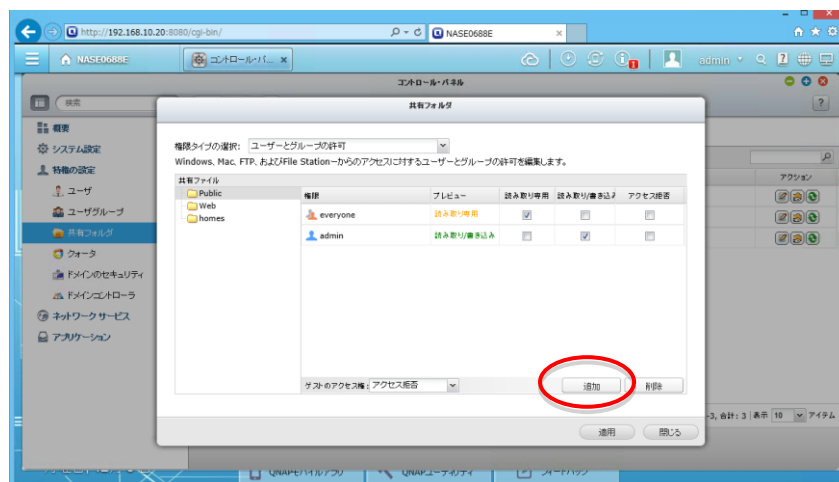
3. アクセス設定が可能なフォルダ名の右側に、[アクションアイコン]が 3 つ並んでいます。設定を行いたいフォルダの、真ん中のアイコンの[アクセス許可]アイコンをクリックします。



4. アクセス設定ウィンドウが表示されます。



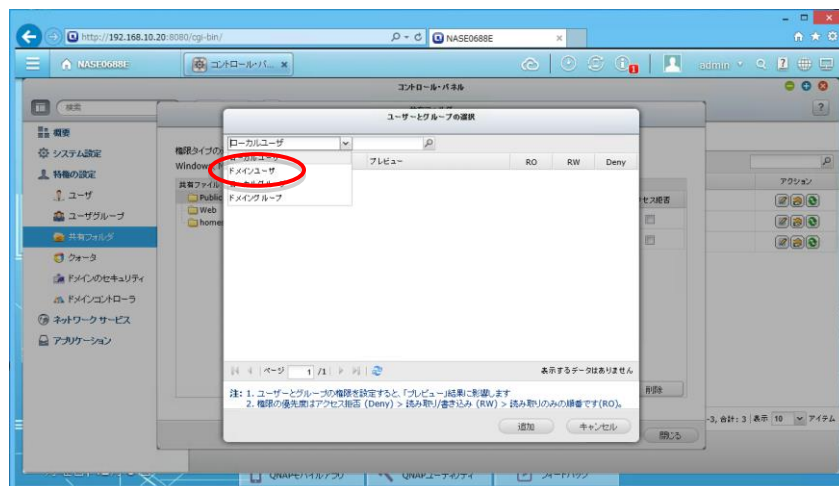
5. ウィンドウ右下の[追加]ボタンをクリックします。



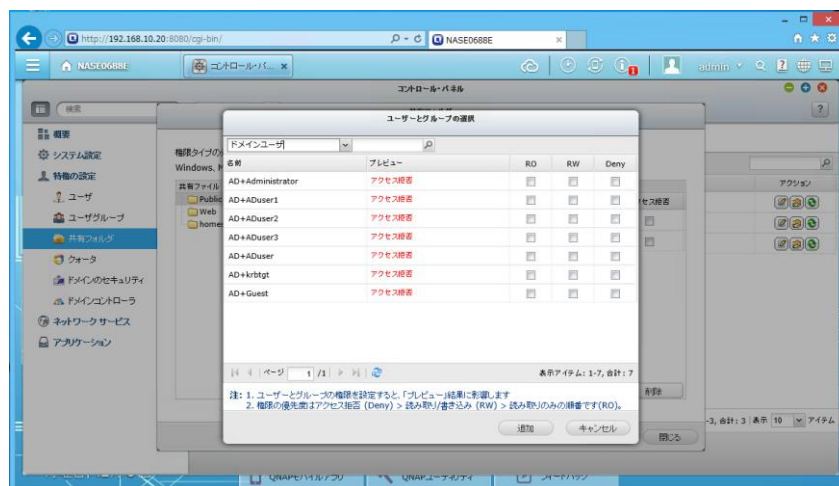
6. ユーザ設定ウィンドウが表示されます。



7. 左上のユーザ種別選択ドロップダウンリストより[ドメインユーザ]を選択します。

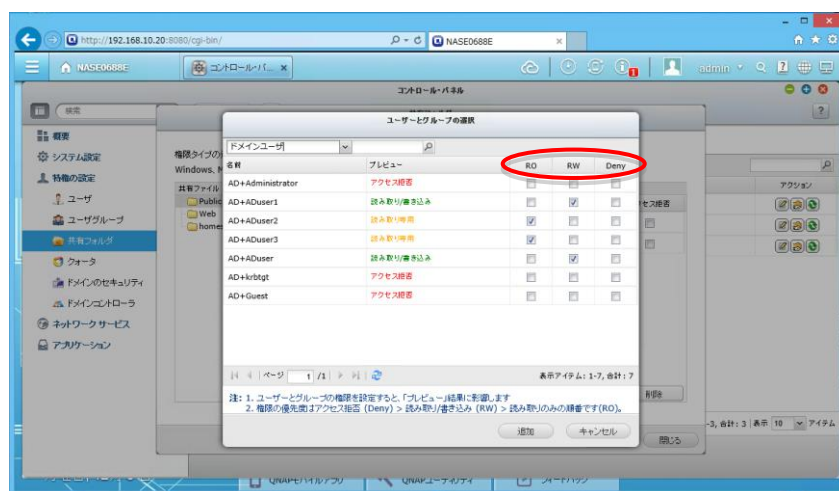


8. AD ユーザの一覧が表示されます。



9. アクセス設定を行うユーザの右側にあるチェックボックスにチェックを入れ、権限を設定します。権限は下記となります。

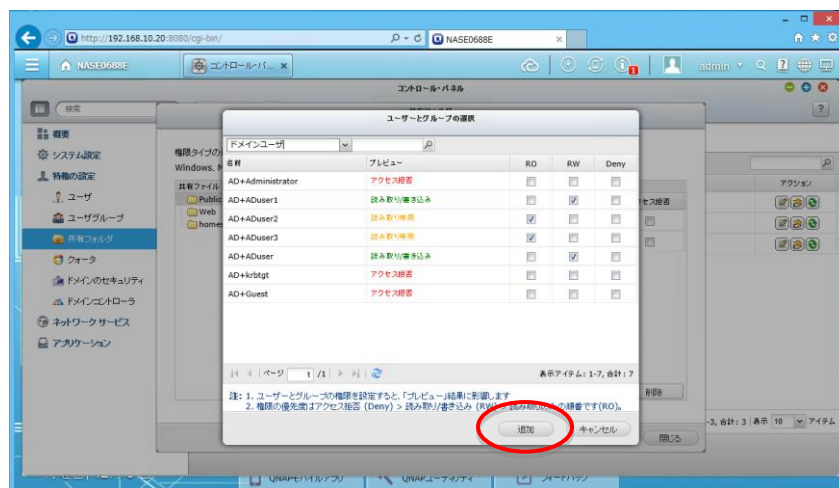
- RO : 読み取り専用
- RW : 読み取り/書き込み
- Deny : アクセス拒否



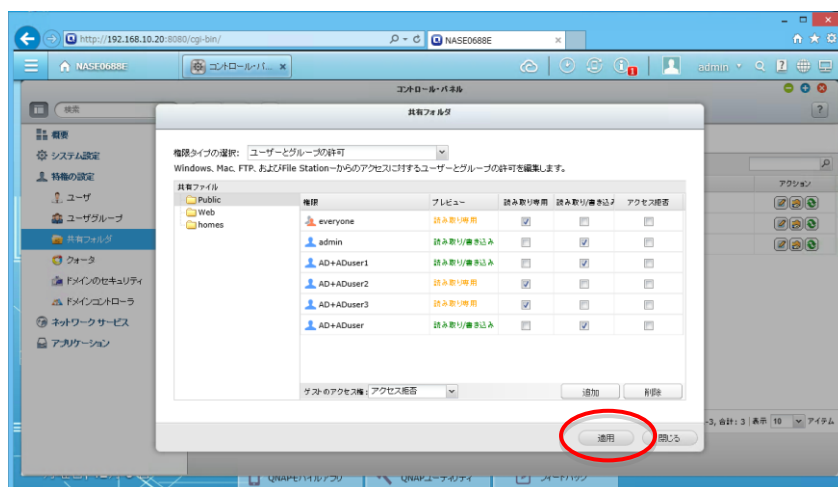
※権限の優先度は、「アクセス拒否 (Deny)」 > 「読み取り/書き込み (RW)」 > 「読み取り専用 (RO)」の順番です。

今回の例では、ユーザ「ADuser」「ADuser1」に対しては「読み取り/書き込み (RW)」、ユーザ「ADuser2」「ADuser3」に対しては「読み取り専用 (RO)」の権限を設定しています。

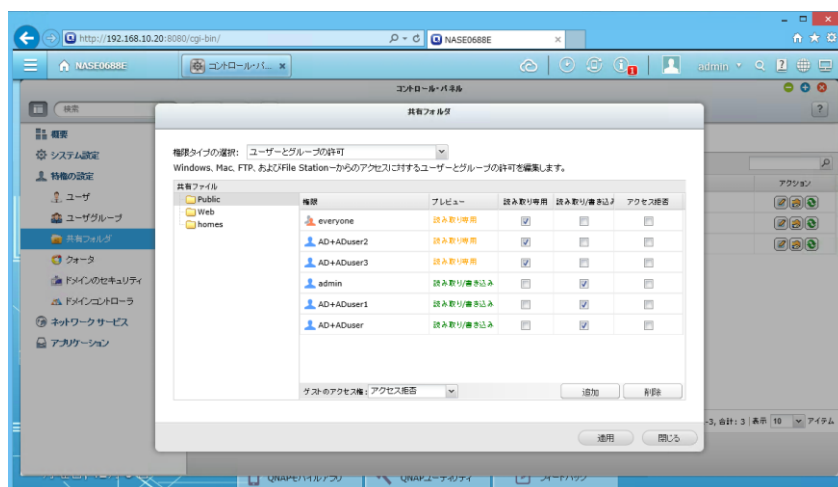
10. [追加]ボタンをクリックしてユーザを追加しユーザ設定ウィンドウを閉じます。



11. 必要なユーザを追加したら[適用]ボタンをクリックします



[適用]をクリックした後、[手順 9]で設定した、ユーザ「ADuser」「ADuser1」「ADuser2」「ADuser3」のアクセス設定が反映されていることを確認します。



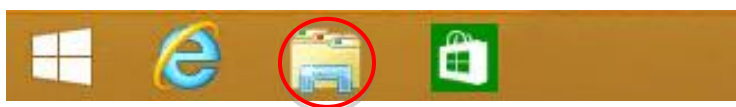
ファイル共有設定確認

(ここからは設定ではなく、設定が反映されていることを確認する作業です。)

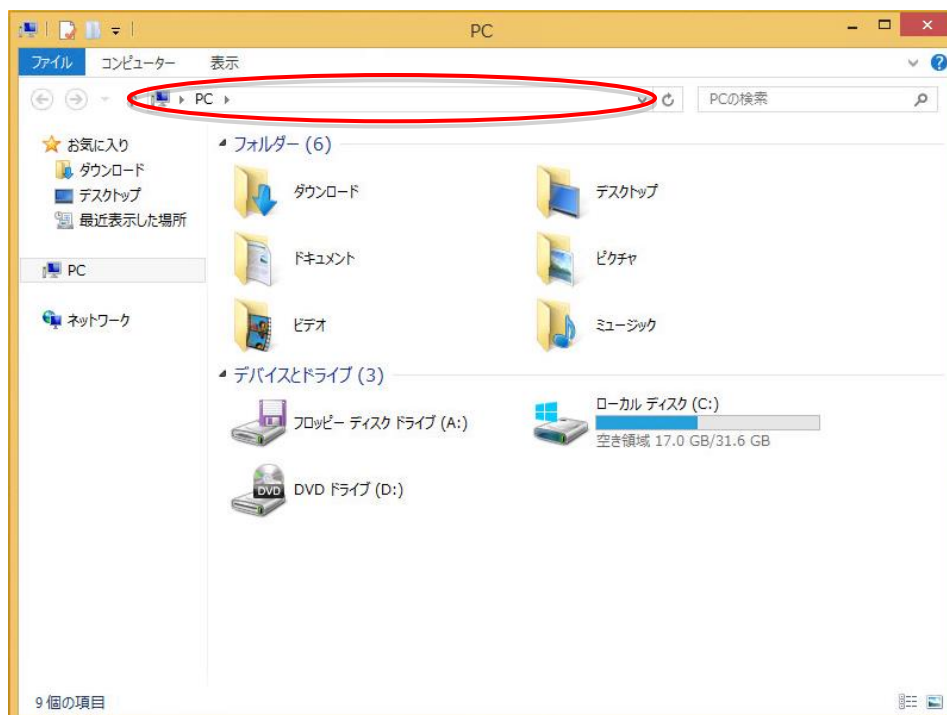
これまでの作業で、Active Directory における QNAP の使用環境が一通り揃いました。この項では、AD ユーザが QNAP の共有フォルダを使用できることを確認します。

※この作業を行うにあたって、クライアントマシンを事前に Active Directory に参加させてから作業を実施してください。

1. 共有ディレクトリへ読み取り/書き込み権限のあるユーザでクライアントマシンにログオンします。(今回の例では、「ADuser」「ADuser1」)
2. タスクバーのエクスプローラーのアイコンをクリックして開きます。

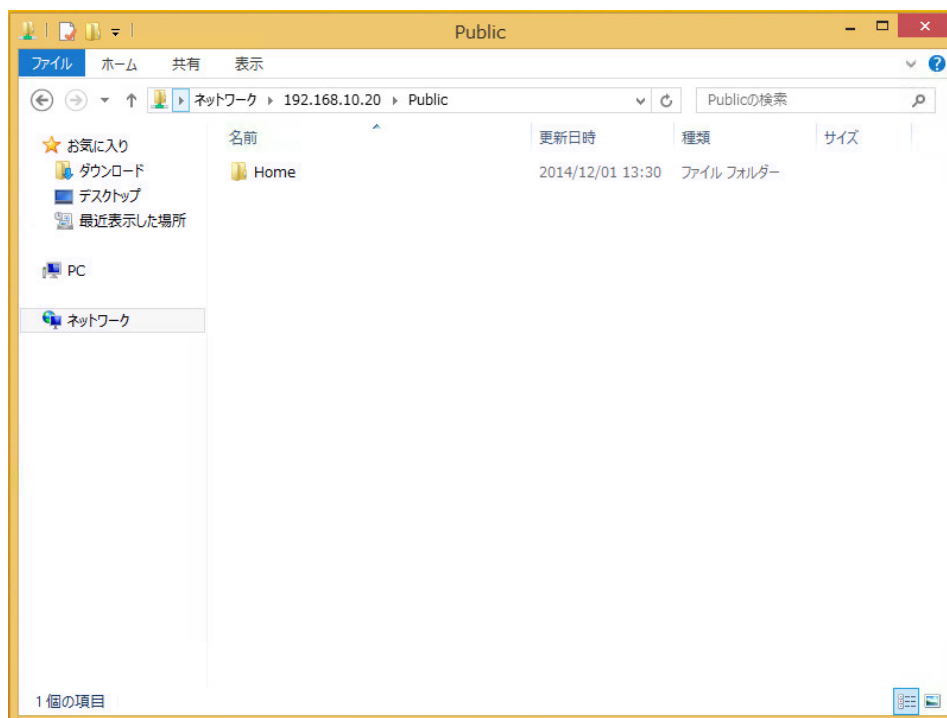


3. エクスプローラーのパス名入力欄に[¥¥QNAP の IP アドレス¥共有したフォルダ名]と入力して Enter を押します。

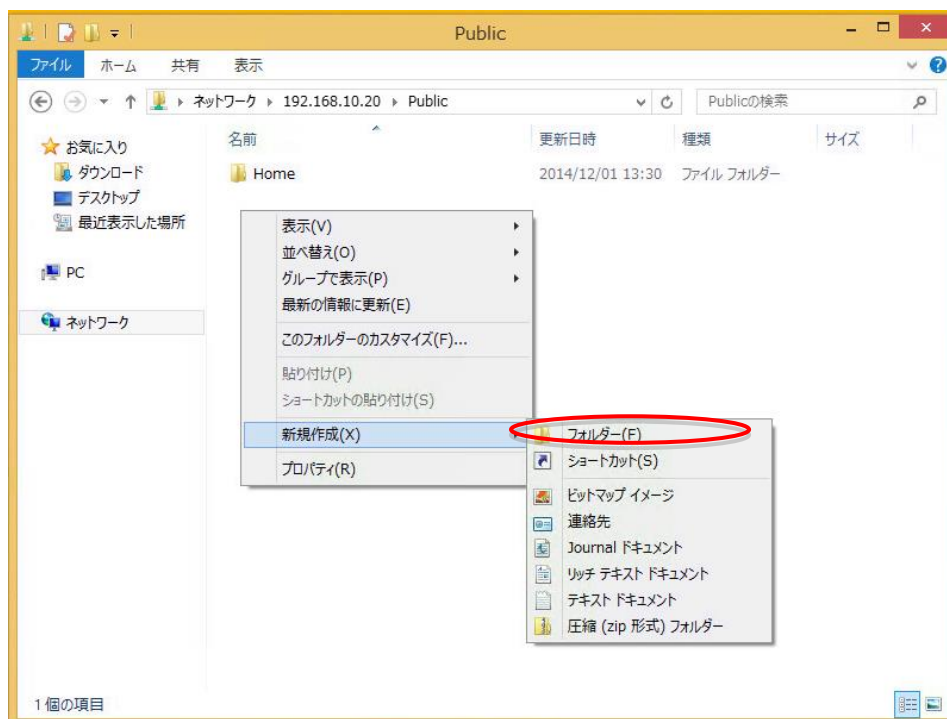


例えば、今回はQNAPのIPアドレスは192.168.10.20、共有フォルダ名はpublicですので、[¥¥192.168.10.20¥public](#)と入力します。

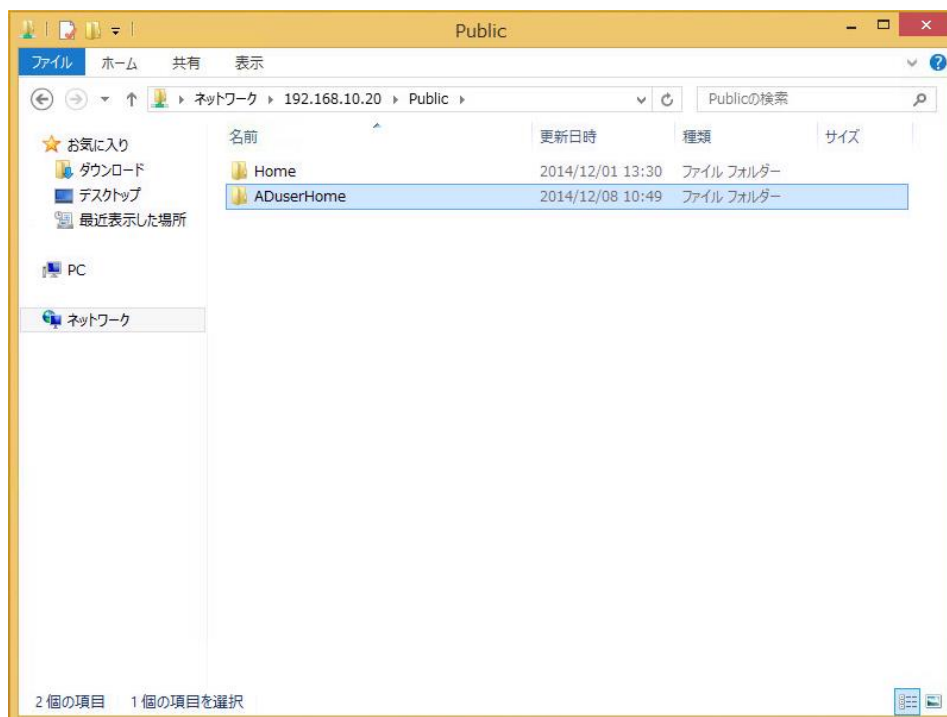
4. QNAPの共有フォルダへ移動します。



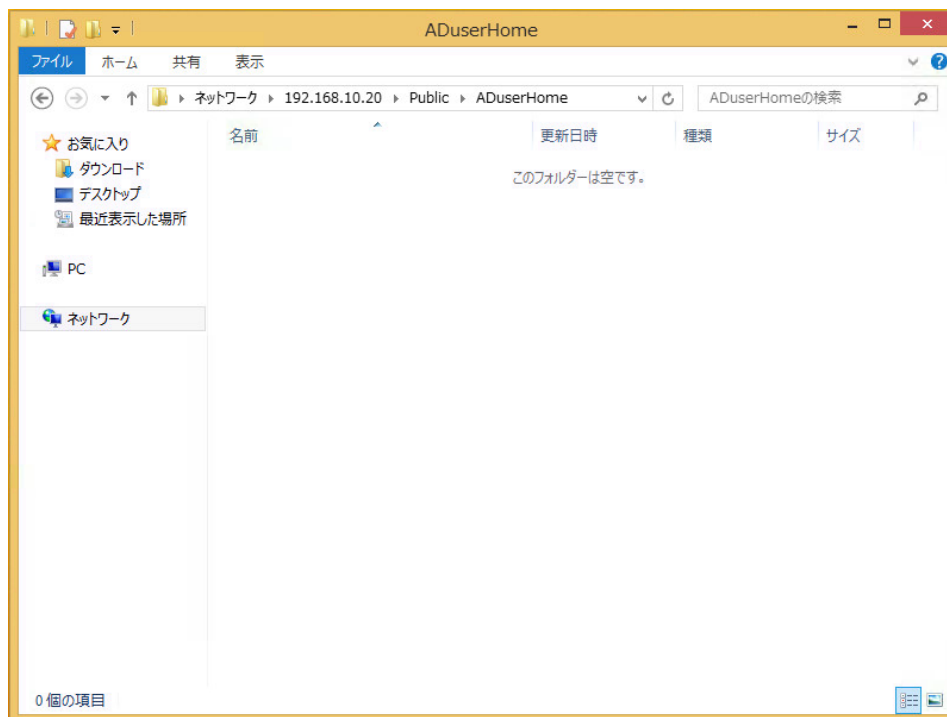
5. エクスプローラー上で右クリックしてメニューを表示して[新規作成]→[フォルダ]を選択します。



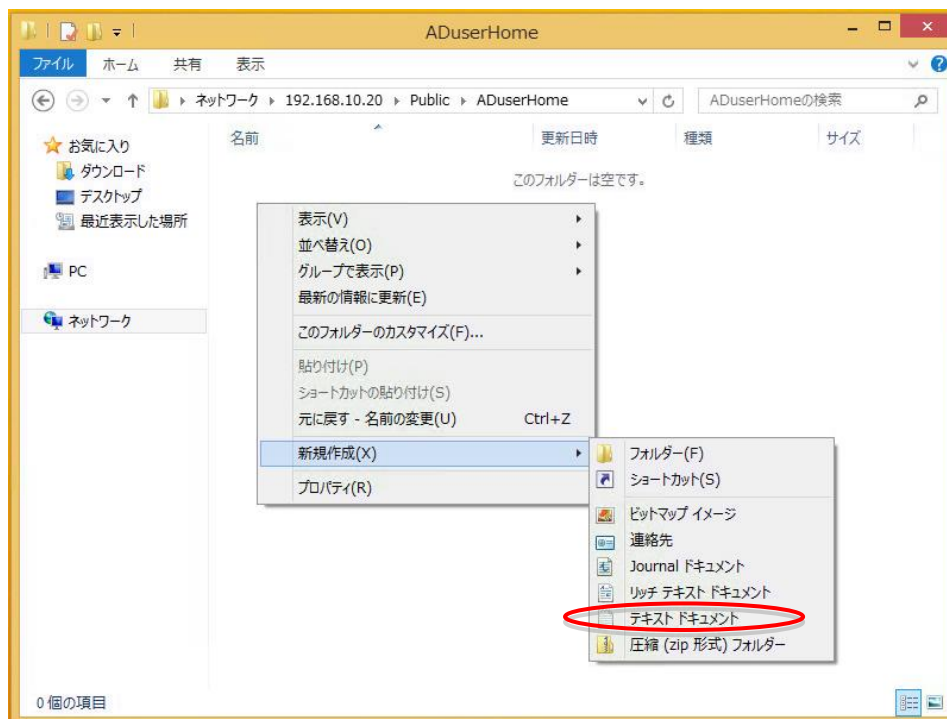
6. フォルダが作成されるので任意の名前に変更します。
(今回は ADuserHome というフォルダ名にします。)



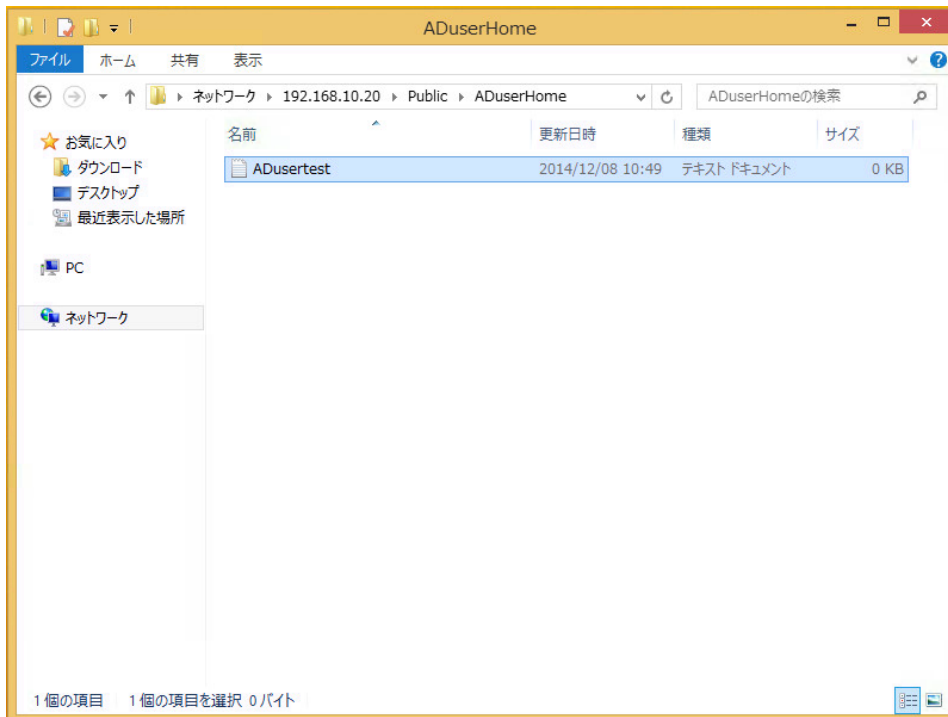
7. 作成した「ADuserHome」フォルダをダブルクリックして「ADuserHome」フォルダ配下に移動します。



8. エクスプローラー上で右クリックしてメニューを表示して[新規作成]→[テキストドキュメント]を選択します。



9. テキストファイルが作成されるので任意の名前に変更します。
(今回は「ADusertest」というファイル名に変更します。)

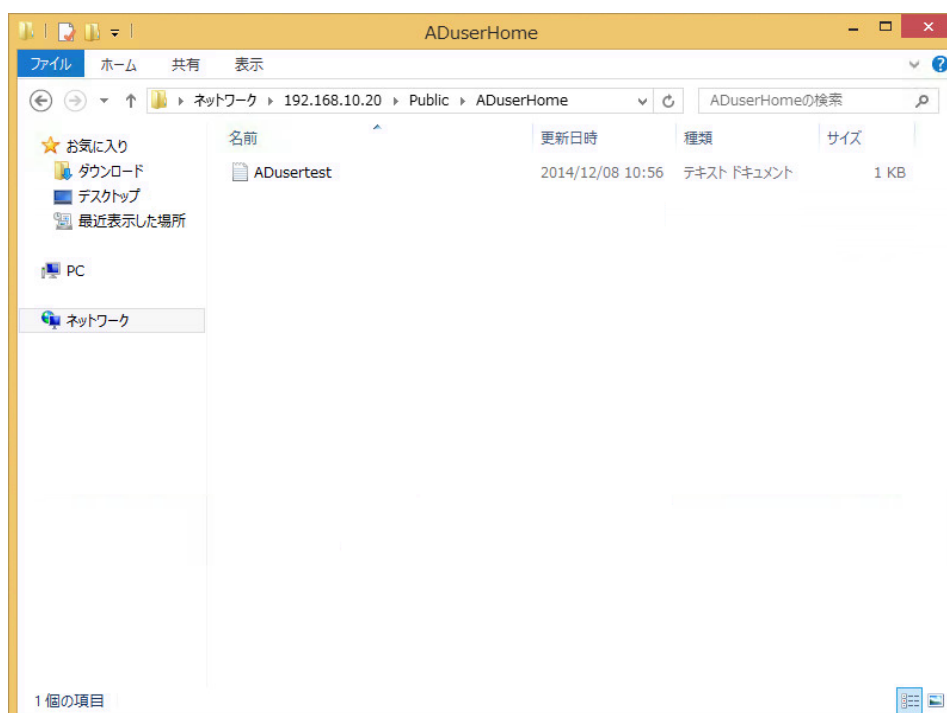


10. 作成したテキストファイル（ADusertest）をダブルクリックしてメモ帳で開きます。

11. メモ帳で適当な文字を入力して保存します。



12. 一旦編集したユーザをサインアウトします。
13. 次は共有ディレクトリの読み込み権限のみのユーザでログオンします。
(今回の例では、「ADuser2」「ADuser3」)
14. 手順 2~4 の順番で共有ディレクトリへ移動し、手順 5、6 で作成したフォルダへ移動します。



15. テキストファイルをダブルクリックしてメモ帳で開きます。
16. 適当な文字列を入力して上書き保存を行っても、アクセスが拒否され、エラーとなることを確認します。

